

島根県無形民俗文化財 益田糸操り人形グランドワ公演

演目解説(上演順)



寿三番叟 ◆ ことぶきさんばそう

古い猿楽芸を伝えているといわれ、狂言では能の翁と同じように祝言曲として取り扱われており、顔見世興行や正月に芝居繁栄を祈るときにも演じられています。この人形の頭には2代目大江定丸作者の銘が書かれています。

傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段 ◆ けいせいあわのなると じゅんれいうたのだん

殿様の刀を取り返すために盗賊となった十郎兵衛・お弓夫婦のもとに仲間から追っ手を知らせる手紙が届く。お弓が夫の身を心配していると、そこへ巡礼の少女がやってくる。話を聞くうちに、その少女が、ふたりが国を出るとき故郷に残してきた実の娘お鶴だとわかる。しかし今は盗賊の身。親子と名乗れば娘にも罪がかかるので名乗ることができない。親探しを諦めるよう言うものの、お鶴は聞き入れようとしない。お弓は親子の情に耐えかねてお鶴を抱きしめ、また娘もいっしょに暮らしたいと願う。お弓は心を鬼にして、涙ながらにわが子を追い返そうとする。しかし今別れてはもう二度と逢えないと思ひ直し、ふたたびお鶴のあとを追いかけていく。

絵本太功記 尼ヶ崎の段 ◆ えほんたいこうき あまがさきのだん

京都本能寺で主君小田春長を討った武智光秀の母皐月と妻操は、尼崎に隠れ住んでいた。そこに光秀の一子十次郎の許嫁初菊が老婆の体を気遣って訪ねた。おりしも十次郎は出陣のため暇乞にやってきた。祝言もすまないのに死ぬ覚悟の十次郎を見た老母は、初菊との仮祝言を挙げさせて出陣させた。そこへ光秀を討とうと間柴久吉が茶坊主に扮して現れた。久吉が隠れ家に潜んでいることを知った光秀は、竹で槍を作り久吉の潜む一間を突き刺した。しかし、意外にも突き刺したのは老いたわが母であった。あまりのことに愕然とする光秀、瀕死の痛手にもめげずにわが子を諫める皐月、妻操は夫光秀を責める。しかし二人の諫言に耳を貸すこともなく、光秀は再び出陣していくのであった。

山本一流獅子の一曲 ◆ やまもといちりゅうししのいっさよく

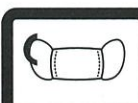
おめでたい獅子舞を操り人形で演じます。この演目の獅子は、糸操り人形がこの地に伝わってきた当時のものです。



《お客様へのお願い》

以下に該当される方はご来館をお控えください

- 発熱、咳等の症状のある方、体調不良の方
- 過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国や地域への訪問歴がある方



マスクの着用



検温の実施



緊急連絡先のご記入



手指の消毒



会話はお控えください

なお、感染状況により予定を急遽変更する場合がございます。ご来場の際は、ホームページ、またはお電話にてご確認ください。ご不便・ご迷惑をお掛けいたしますが、ご協力いただきますようお願いいたします。

益田糸操り人形 保持者会 「会員募集」

全国的にも貴重な糸操り人形を後世に残していくために、一緒に伝統を受け継いでいただける方を募集しております。毎週金曜日に益田市立市民学習センターに於いて練習しています。興味のある方は、どうぞお気軽に見学にきてください。